

短歌 ― 虚空 ―

土田 舞山

元日なるに東名高速の賑うは繁栄の証しぞ令和に幸あれ
新元号令和となりて突然の抗がん医療にこの身をまかす
病窓ロマン虚空の奥こそ天国ぞ億万光年をも瞬時に逝かむ
鰻めしを快気祝に戴きて大満足なり冥土の土産
老いの身を家族に任せ一つづつ世との関わり切れてゆくなり
曾孫らと遊べる幸せ歎びを亡き妻にもと遺影を寄せる
我が影が落陽うけて五メートル踏み歩めば更に伸びゆく
珍寿迎え悦びくれる友の言う電話欠かすな声は命よ
ポイジャーが宇宙を探るに新型のコロナウイルスこの世をこわす